第 1学年　ESDカレンダー　　江東区立八名川小学校

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	ひらがなの読み書き		くちばし（生命の尊重）			カタカナの読み書き			あつまれ ふゆの　ことば（自国文化）		どうぶつの 赤ちゃん（生命尊重）	
算数		10までのかず										
生活	はなを　そだてよう（環境）→		こうえんであそぼう（環境・地域理解）	むしとなかよくなろう（生命尊重）		あきをさがそう（環境） はっぱのいろがかわったよ			みんないっしょにたのしもう（環境・生命尊重）		もうすぐ2年生（人権）	
		みつけたことを　おしえあおう（表現・質問力）							たのしくあそぼう（むかしあそび　がいこくのあそび）（異文化・自国理解、コミュニケーション能力）			
	俳　句　づ　く　り　（自国文化の理解）											
特活										八名川まつり		
道徳	しぜんのいのち（生命尊重）		ハムスターの あかちゃん（生命尊重）	たすけて（自然愛、動植物愛護）				ごめんね、みなみ（自然愛、動植物愛護）			ナイチンゲール（生命尊重）	
音楽												
図工												
体育		八名川音頭（自国文化）										

環境の教育　多文化の理解　人権・命の教育　国際的な協力

江東区立八名川小学校

生活科　第１学年　指導計画

４月

単元名「どきどきわくわく一年生」（７時間）

【ねらい】学校の施設や先生、友達などと関わることを通して、学校に親しみ、学習に意欲をもち、楽しく生活を送る。

【課題の把握】
○登下校のことを話し合い、登下校時の挨拶や交通安全上のルールなどの必要性に気付いたり、通学路の様子や人々とのかかわりに関心をもったりする。

【問題追究】
○学校でのルールや生活習慣があることに気付き、正しい行動について話し合う。

【まとめ・味わう】
○みんなが気持ちよく生活できるためには、挨拶や言葉遣い、整理整頓などを心がけることを確かめる。

【発　展】
○友達にされて嬉しかったことや自分が頑張ったことなどを振り返り、みんなに発表する。

【地域人材・関係機関】
○深川図書館

５月

単元名「がっこう　だいすき」(15時間)

【ねらい】校舎内や校庭を歩いたり、調べたりして、自分たちの周りには安全を守ってくれる人がいることが分かり、楽しく安全に生活を送る。

【課題の把握】
○校舎内や校庭を歩き、学校の施設や校内で働いている人などに興味・関心をもつ。

【問題追究】
○先生や２年生に引率されて、校舎内を回り、各教室の役割について調べる。
○校庭で、草花や虫を観察したり、飼育動物とかかわったりして、校庭の動植物と触れ合う楽しさを知る。

【まとめ・味わう】
○１年生だけで、校舎内を探検したり、色々な先生にインタビューをしたりして、学校の施設の役割や安全を守っている人がいることを理解する。

【発　展】
○学校の施設や先生たちのことで分かったことを友達に発表する。

【地域人材・関係機関】
○２年生　○校内の教職員

６月　７月　８月

単元名「なつだ　いっしょに　あそぼうよ」（9時間）

【ねらい】夏の公園や校庭で、動植物などの自然を利用して、工夫して遊んだり、公共施設の正しい使い方が分かったりして、安全に楽しく利用する。

【課題の把握】
○みんなで、公園に遊びに行く計画を立てる。
○公園でどんな遊びをしたいかを話し合う。

【問題追究】
○話し合ったことをもとに、公園に行って、クラスの友だちと工夫して遊ぶ。
○公園での挨拶や遊具の譲り合いなど、みんなできめた「約束」を守って、友達と一緒に遊んだり、公園に来ている人と関わったりする。

【まとめ・味わう】
○自分たちがした遊びを、友達と教えあう。
○記録カードに、自分のした遊びをかく。

【発　展】
○前時とは違う公園に行って、新しい遊びを考え出し、みんなで遊ぶ。
○みんなで相談し、ルールを変更して遊ぶ。

【地域人材・関係機関】
○地域にある公園

９月

単元名「いきものと　なかよし」（１０時間）

【ねらい】身近な生き物を探したり飼ったりして、生き物の成長や命の大切さに気付き、生き物への親しみをもち、大切に世話をする。

【課題の把握】
○花壇や草むらで見つけた虫を観察する。

【問題追究】
○虫を捕まえる準備をして、校庭のいろいろな場所で虫を捕まえる。

【まとめ・味わう】
○虫を捕まえた時のことや虫がいた場所について教えあう。

【発　展】
○友達に教わった場所に、虫を捕まえに行く。
○家の近くで、家の人といっしょに虫を探す。

【地域人材・関係機関】
○自然観察員

【俳句づくり】　朝の俳句づくり（週１日）＋句会（月１日）

１０月	１１月	１２月	１月　　２月　　３月	
単元名「たのしさいっぱいあきいっぱい」(１４時間)	単元名「あきのおもちゃ　だいしゅうごう」(１１時間)	単元名「みんないっしょに」(１２時間)	単元名「ふゆを　たのしもう」(９時間)	単元名「もうすぐ２ねんせい」(15時間)
【ねらい】秋の校庭や公園で、秋の草花や虫などの自然を利用して、工夫して楽しく遊ぶことで、自然のおもしろさやふしぎさに気付かせる。	【ねらい】校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを作ったり、遊び方を工夫したりして、遊びを楽しむことができる。	【ねらい】自分の一日の生活を振り返り、家の人と一緒に仕事や趣味のことをする中で、自分の役割が増えることに喜びを感じるとともに、規則正しい生活を送る。	【ねらい】校庭や公園で、動植物、風、光、水などの自然を利用して、遊びの面白さに気付くとともに、みんなで使う公園を安全に正しく利用する。	【ねらい】自分の一年間を振り返るとともに、未就学児との関わりを通して、自分の成長に気付き、進級の喜びを感じる。
【課題の把握】 ○普段の生活で見つけた、身近な秋について話し合い、校庭に秋探しに行く計画を立てる。 【問題追究】 ○木の実や落ち葉など秋の自然物を集めたり、秋の自然を利用して校庭で友達と遊んだりする。 【まとめ・味わう】 ○夏のころと様子が変わっているところを話し合う。 【発　展】 ○友達から紹介された秋を探しに、もう一度校庭に行く。 ○公園で見つけた秋のことを教えてあげたい人を決め、口頭や作品で伝える。	【課題の把握】 ○自分たちで集めたどんぐりや落ち葉を使って、作ってみたいものを話し合う。 【問題追究】 ○秋の自然物を使って、おもちゃを作って遊ぶ。 【まとめ・味わう】 ○作ったものを紹介し合い、さらに改良を加えながら、みんなで楽しく遊ぶ。 【発　展】 ○３年生を招待して、おもちゃ飾りを紹介する「おもちゃランド」を開く。	【課題の把握】 ○自分の一日を振り返り、朝起きてから、夜寝るまでの間に、家でしていることを発表する。 ○自分の１日の生活について、している順にワークシートにまとめる。 【問題追究】 ○毎日していることの他に、家の人と一緒にできそうなことを考え、実際に行う。 【まとめ・味わう】 ○家の人と一緒に仕事や遊びを行って感じたことを発表し合い、家の人への感謝に気持ちを高める。 【発　展】 ○今後も自分でできそうなことを考え、継続して行っていく。 ○家の人に感謝の気持ちを手紙などで伝える。	【課題の把握】 ○身の回りで、冬になって変わってきたことを発表し、冬の校庭へ出かける準備をする。 ○地域のお年寄りの方から昔遊びを教えてもらう。 【問題追究】 ○校庭で、冬探しをしたり遊んだりする。 ○昔遊びに挑戦する。 【まとめ・味わう】 ○教室に戻って、見つけたことや遊んだことを伝え合う。 ○昔遊びを紹介する準備をする。 【発　展】 ○「八名川まつり」で昔遊びを紹介する。	【課題の把握】 ○自分が入学したころを思い出し、新しい１年生が入学してくるときの気持ちや様子を話し合う。 【問題追究】 ○自分の学校生活を振り返り、新しい１年生に教えたいことや、一緒にしたいことを話し合う。 【まとめ・味わう】 ○新しい１年生を学校に招待するために、招待状を作る。 【発　展】 ○幼稚園や保育園に行って、園児に招待状を渡す。 ○「できるようになったこと発表会」をする。
【地域人材・関係機関】○移動動物園 ○どんぐり博士　○自然観察員	【地域人材・関係機関】 ○３年生	【地域人材・関係機関】 ○保護者	【地域人材・関係機関】 ○地域のお年寄り　○地域の公園	【地域人材・関係機関】 ○地域の幼稚園や保育園

【俳句づくり】　朝の俳句づくり（週１日）＋句会（月１日）

第１学年　生活科　学習指導案

第１学年　１組 ３１名　　２組 ３０名

１　単元名「みんなのあそび、だいすき」

２　単元の目標

異文化に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、遊びなどの方法により表現し、考えることができるようにする。

自分たちの調べたことについて伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

３　評価規準

学習過程	問題解決的な学習で育てたい力	重視する能力と態度
課題の把握	問題を見出す力	・ゲストティーチャーの話を聞いて、外国の遊びについて知り、疑問に思ったり、調べたりしたいことが決まる。（気付き）
問題追究	計画を立てる力 （多面的・総合的に考える力） 問題を追究する力 （コミュニケーションを行う力）	・外国の遊びについて、もっと知りたいことを調べることができる。 ・分かったことをどんな方法でまとめるか考えることができる。
考察・まとめ	分かりやすく表現する力 （多面的・総合的に考える力）	・外国の遊びを調べ、分かったことを身近な友達に伝えるために表現方法を工夫する。
	振り返る力 （批判的に思考判断する力）	・遊びを通しながら外国の文化に触れ、異文化理解を深めることができる。 ・相手の気持ちを考え、表情や態度などで気持ちを表し、交流することができる。（思考・表現）
発展	実生活に活かす力 （未来像を予測して計画を立てる力 コミュニケーションを行う力）	・学級内で交流したことを生かし、他学級の友達へ紹介し、お互い調べたことを伝え合うことができる。（工夫・表現）
人と関わる力		・外国のことを知り、これからも外国の遊びや文化に関心をもち、進んで触れ合おうとすることができる。 ・グループの友達と協力しながら、調べたりお店の準備をしたりすることができる。

４．単元について

（１）単元観

生活科では、対象に触れたり、活動を通したりすることで気付きが生まれる。その気付きは体験を繰り返すことで、気付きの質が高まってくる。高まった気付きは、次の自発的な活動につながり、活動や体験が一層充実してくる。

そこで、この単元では、子どもたちが大好きな遊びを通して、異文化を理解する活動を取り入れたいと考えた。

普段何気なく遊んでいる遊びは、日本の文化と外国の文化と分けたり、考えたりしていない。その遊びが好きで夢中になって遊んでいる。課題把握では、自分が選んだ外国の遊びを調べ、課題・追求で選んだ遊びを繰り返し遊ぶことで、気付きを深め、遊びを工夫させたい。その好きで夢中になれる気持ちを大切にしながら、異文化を受け入れ、好意的に関わろうとする態度を育てていきたい。考察・まとめでは、隣りのクラスに伝えるためには、どんな工夫が必要か考えながら、コミュニケーション能力を身に付けさせたいと考えている。発展では、体験を通して学んだことを生かしながら、異文化の理解を深め、伝える相手に合わせた話し方（コミュニケーション能力）が身に付けられるようにしていきたい。

５．児童の実態

１年生は、２年生と学校探検や生活科見学を行い多くの関わりを経験してきた。これらの活動の中で、上級生に優しく接してもらったり遊んだりしたことで、仲良く活動することの良さを味わってきている。

子どもたちが大好きな遊びをテーマにした今回の学年交流が、お互いを知る良い機会となると共に、異文化との出会いやもっと知りたいという動機になると考えられる。

（３）指導観

気付きの質を高め、活動や体験を充実させるための学習活動を重視しなければならない。そこで、子どもたちが活動を通して気付いたり、繰り返し取り組みたくなったりする遊びの活動を取り入れた。

遊びの話から、異文化への抵抗感を無くし、知りたい、調べたい、やってみたいという気持ちを大切にし、自発的に活動に取り組ませたい。

遊びながら、「自分や友達の遊びがもっと楽しくなるためには、どうすればよいのか。」という気付きから、遊びを工夫したり、話し合ったりすることで気付きを深めさせ、次への行動につなげさせたい。

遊び大会でみんなが楽しめるためには、遊び方を正しく伝えたり、遊ぶためのコツを教えた

りする。その活動はコミュニケーション能力が必要である。相手を意識した、話し方や視覚に入る具体物の工夫をする態度を育てたい。そのために、朝の日直のスピーチで話したり、疑問に思ったことを質問したりする活動を繰り返し行っている。

この単元を通して学んだことは、一月にある八名川まつりでお店を出すときに、お客さんを意識した内容（日本の昔遊び）を考えたり、接客をしたりする態度に生かしていきたい。

６．研究主題に迫るための手立て

（１） 教科との関連を意識した単元の開発

①国語科「ものの　名まえ」との関連

→国語科「ものの　名まえ」では、上位語・下位語の関係を学習している。世界の遊びを教え合う活動では、それらの学習内容を生かした活動を行う。国語科での言葉集めや説明文や、話す聞く活動が、遊びを説明するときにも生かされる。

（２）「人と関わる力」を育む場の設定の工夫

①お年寄りの方々との交流

→世界の遊びを体験した後、日本の遊びを教えてもらう。異年齢の方々に教わったり、一緒にその遊びを楽しんだりする中で、地域の方々との交流を深められる。

②保育園児との交流会の設定

→日本の遊びと世界の遊びを学んだ後、保育園児を招き交流を行う。お客さんを自分たちよりも小さい子にすることで、内容や話し方、聞き方をすれば相手に伝わりやすいのかなどを考えやすい。

（３）「実生活に活かす力」を育む表現方法の工夫

①発表方法工夫

→学んだことを相手に伝える時に、相手の年齢や状況によって改善の仕方が変わってくるのということ意識させる。そのために、発表本番の前にリハーサルを行い、お互いの発表を見合うことで、良いところや改善点を話し合う。

6. 指導計画　第1学年　生活科

単元名「みんなのあそび、だいすき！」　全14時間

課題の把握（３時間）

①事実との当面

学習活動　ゲストティーチャーの話を聞いたり、今までの行ってきた遊びについての話を聞いたりして、いろいろな国の遊びがあることを知る。

T：世界の遊びがあることを知ってどう思いましたか。
C：ほかの国の遊びをもっと知りたい。

留意点　児童が日常的に行っている遊びを取り上げ、イメージを持ちやすくする。

評価　問題を見いだす力

②問題意識の集約化

学習活動　話を聞いて、初めて知ったことやもっと知りたいことを出し合う。

T：学年で教え合う前に、初めて知ったことや調べてみたいことは何ですか。
C：お友達の国の遊びを知りたい。
C：自分が知っている遊びがどこの国の遊びなのかを知りたい。

留意点　家族にインタビューする機会があることを伝える。

評価　問題を見いだす力

③学習問題を明確化す

学習問題　〇〇の国の遊びにはどんなものがあるのか、本で調べたり家族にインタビューしたりして調べる。

C：〇〇の国の遊びを知ることができた。
C：調べた遊びをやってみて、ほかの人たちに伝えたい。

留意点　調べたことを実際に行ってみて、その楽しさを伝えることを知らせる。

評価　問題を見いだす力

問題・追究（６時間）

④学習計画を立て

学習活動　調べた遊びを実際に行い、遊び大会を行う。

T：調べた遊びをみんなで楽しむ会を開くためにどんなことが必要ですか。
C：遊びで使う道具を準備する。
C：遊びのルールを確認する。
C：遊びのグループを決める。

留意点　誰が何を準備するのか話し合い、班ごとに協力して活動させ、遊び大会を行わせる。

評価　計画を立てる力

⑤追究する

学習活動　遊び大会を振り返り、学年の交流をするための計画を立て、教え合う準備をする。

T：遊びを伝えるためにどんな準備が必要ですか。
C：遊びのルールや使う物などを書いた紙。
C：来たくなるような、招待状。
C：目立つ看板。やる人が分かるように、国名・遊びの名前などを書いた物。
C：更に楽しくするために、ルールを変えること。

留意点　よりよい遊びにするためにはという視点でルールを工夫させる。
自分たちが取り組むだけではなく。他の人にも伝えたいという思いを大切にしながら学年の交流につなげられるようにする。

評価　問題を追究する力

考察・まとめ（２時間）

⑥まとめ・吟味する（本時）

学習活動　隣のクラスの友達を招待した時に、伝える人はどのようなやりとりをすればよいか発表する。

T：それぞれのグループの良いところや直した方が良いところはありますか。

C：〇〇グループは、使う物を見せながら説明してくれたのが良かった。
C：〇〇グループは、説明がわからなかったとき、もう一度、優しく話してくれたのが良かった。
C：〇〇の遊びは得点がとりやすいのがいいと思った。
C：〇〇の遊びは遠くてやりにくかったから、もっと近くしたらやりやすくて面白くなると思う。

留意点　お客さんと説明の役を交代して行う。交代する前に友達の良いところを参考にさせる。終わった後に、よかったところ、改善したほうがよいところを話し合わせる。

評価　分かりやすく表現する力　人とかかわる力

発 展（３時間）

⑦発展（実行・参加・働きかけ等）

学習活動　隣のクラスの友達を招待し、世界の遊びを教えたり体験したりしてもらう。

T：隣のクラスの友達と遊んでどう感じたか発表しましょう。
C：お話を一生懸命に聞いてくれた。世界の遊びを優しく教えることができた。
C:隣のクラス友達が楽しく遊んでくれてよかった。
C お客さんは、もっとゆっくり話すといいよとアドバイスできた。

留意点 相手が楽しめるような話し方、聞き方、接し方を意識しながら遊びの会をさせる。
学年の交流を通して、相手への優しい思いやりの気持ちをもって接するようにさせる。

評価　振り返る力　実生活に活かす力

学習活動　世界の遊びを通して、異文化や日本の文化の良さを知る。

T:：世界の遊びを行ってみて、どんなことを思いましたか。
C：世界の遊びも面白い。
C：もっとやってみたい。
C：日本の遊びもやってみたい。
C：どちらもよいなと思った。

評価　実生活に活かす力

【参考資料】
・生活科指導書（東京書籍）
・国語教科書「ともだち（第１学年）」（光村図書）
　単元名「ことばって、おもしろいな」
・発展として八名川まつりで、ここでの活動を生かしていく。

7　本時の指導（11/１４時間）

（1）目標　隣のクラスの友達に分かりやすく伝えるための方法を話し合うことできる。

（2）展開

<table>
<tr><td rowspan="2">問題解決の過程</td><td colspan="3">まとめ・吟味</td></tr>
<tr><td>○外国の言葉で挨拶などをして、外国の遊びへの関心を高める。</td><td>○自分達が楽しんだ遊びについて伝え合う。</td><td>○遊びを紹介し合って、思ったことや考えたことを学習シートにまとめる。</td></tr>
<tr><td>T：今日は、世界の遊びをお友達に伝えます。
はじめに、外国の言葉で挨拶をしましょう。

【留意点】
・音楽を流すか絵を掲示し、遊びのイメージを持たせやすくする。
・国の名前クイズなどをし、遊びへの関心を高める。

黒　　板
A　C
B　D

【１組】
A　ペートーン（タイ）
B　ピンザテイルオンザドンキー（アメリカ）
C　フリスビーゴルフ（オーストラリア）
D　トゥホ（韓国）
【２組】
A　はねけり（中国）
B　あてっこ（ドイツ）
C　わなげ（ノルウェー）
D　おはじき（アフリカ）</td><td>T：これから、○○グループが遊びについて発表してもらいます。
しっかり聞きましょう。○○グループさん、お願いします。

C：これから、○○グループの発表を始めます。
○○という国には、○○という・・・

C：これで、○○グループの発表を終わります。

C：わたしたちの発表を聞いて、どんなことを思いましたか。
C：教えてもらって、やりたくなりました。
C：知っている遊びと似ているなと思いました。

T：○○グループの遊びのよかったところやもっとこう直したらというアドバイスありますか。

C：○○グループは、使う物を見せながら説明してくれたのがよかった。
C：得点がとりやすいのがいいと思った。
C：○○という遊びは、場所が遠すぎたのでなかなかうまくいかない。もっと近くから始めたらやりやすくなると思う。

【留意点】
・絵を掲示し、遊びのイメージを持たせやすくする。
・お客さんと、説明の役を交代して行う。よかったところ、改善したほうが良いところを話し合わせる。</td><td>T：今日学習して思ったことや考えたことはありますか。

C：友達に聞いてもらうのはどきどきしたけど、一生懸命に聞いてもらえて嬉しかった。
C：アドバイスをしてもらえたので、次はそれを直してできるようにしたい。

T：今日学習して思ったことや考えたことを学習シートに書いてみましょう。

【留意点】
・子どもの発表を板書し、学習シートを書くことを苦手としている児童でも思考が整理できるようにする。
・学習シートを記入できる時間を保証する。</td></tr>
</table>